

【15:00開会】

事務局

【挨拶】

委員長 皆様、こんにちは。今日は、第3回の選定委員会ということで、第2回の後半もしっかりいろいろな意見が出たと思うのですが、本日はより詳しく皆さんからご意見を聞かせていただいて、絞り込んでいくという作業となりますので、よろしくお願ひいたします。

事務局

【資料説明】

本日の流れについてですが、事務局より具申内容の説明を行いますので質疑応答、具申内容の確認をしていただきます。その後、選定委員会としての発行者の順位づけをいただけたらと思います。それでは、委員長よろしくお願ひいたします。

委員長 それでは事務局の方から説明お願ひします。

事務局

まずは東京書籍です。3年生以上は巻末の付録において内容項目C17[我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度]に関する資料が掲載されており、他教科と関連させながら学ぶことができるようになっている。「出会う・ふれ合う」「つながる・広がる」「問題を見つけて考える」という学習の手引きのページが各学年に掲載されており、体験的な学習、対話的な学習、問題解決的な学習を実現することができる。とびらページ、間接的教材、直接的教材が連なって用意され、複数時間にわたり、いじめのことを深くじっくり考えることができるよう、「いじめのない世界へ」というユニットを全学年に掲載している。

次は学校図書です。「読みもの」「活動」の2分冊で構成されている。「読みもの」で考え・議論する道徳、「活動」で主体的・対話的で深い学びに対応し、それぞれの役割が明確化されている。「活動」には、読み物に対応した「発問」「コラム」「広げよう」が設定され見開き構成となっている。教材の展開に即して、「道徳的課題を見出す場面」「葛藤を経て、自ら選択したり判断したりする場面」「自分の考えを表出する場面」が設定されている。さらに「やってみよう」「はなしあおう」「かいてみよう」など具体的な発問が設定されることで「考え、議論する道徳」授業になるよう工夫されている。

次は教育出版です。各教材ごとに「学びの手引き」が配置されており、授業の流れにそって学習を整理することができるよう配慮されている。手引きの中には「教材の理解を深める発問」「問題解決的な発問」「アクティブラーニング」にそれぞれ対応した発問が用意されており、児童の実態に合わせた授業展開を行うことができるよう工夫されている。「ジャンプ」という課題解決に向けたロールプレイや考察などを通じて道徳的価値の理解を深めるページが設定されている。「モラルスキルトレーニング」が全学年にわたって随所に配置され多様なスキルの育成が実現できる。

光村図書全学年を通して、様々な内容項目から「いじめ問題」に結びつく教材とコラムとを組み合わせた「ユニット」が設定されており、「いじめ」をしない、さ

せない、見過ごさない力が系統的に育成されるよう工夫されている。児童が自己評価の記録を残す「学びの記録」が学年4カ所(第1学年のみ3カ所)に位置づけられている。2年生以上の教材の冒頭には、キャラクターを付して学習の課題を児童に呼びかけるようになっている。導入で児童に問いかけ、「考えよう」でめあてを示し、問いにそって考えを深め、「つなげよう」で他教科の学習内容と関連付け、日々の生活へと学びがつながる計画的・発展的な学習ができる。

次は日本文教出版です。別冊で道徳ノートが用意されている。学習状況を継続的に把握し、児童の心の変容をとらえることができ、評価に役立つ。児童にとっては、自分の成長の記録となる。全時間、友達の考えを書き込む欄があり、自分の視点を離れて多面的・多角的な考え方に気づくことができる。保護者記入欄があり、家庭と学校間の連携を図ることができる。「導入の発問」「考えてみよう」「見つめよう生かそう」という発問の流れが児童の考えを引き出し、豊かな学習活動を引き出している。学習の手引きにより、体験的学習や問題解決的な学習を児童主体で行うことで、いきいきとした対話的で深い学びが実現できる。道徳的価値について考えを広げ、深めることができる「心のベンチ」のページを掲載している。

次は光文書院です。各学年の重点主題は複数時間で扱い、続けて学習することで、道徳的価値の理解を深め、道徳的な判断力・心情、実践意欲と態度を引き出す工夫がされている。A4判の大きさで生まれたスペースを利用し、脚注部にキャラクターの吹き出しを掲載することで、多面的・多角的な考え方を促すよう工夫されている。現代的課題について、教材の他にコラムも掲載し、様々な角度から課題を考え、日常生活の行動へとつながるよう取り扱われている。授業の記録を書いてまとめられるよう、巻末に、「学びの足あと」として織り込みのページが設けられ、自らを振り返って成長を実感したり、道徳的諸価値理解を深めたり、整理したりできるよう工夫されている。

次は学研教育みらいです。教材の主題を本文と出会う前に記載しないことで、児童の課題意識を大切にしたりつくりとなっている。また問題解決的な学習の道筋を「深めよう」「つなげよう」「やってみよう」「ひろげよう」の4種類の学び方のページに提示し、道徳的価値について、他者の意見をもとに、多面的・多角的に考える工夫、考え、議論する道徳を実現させている。系統・配列に関して、2学年ごとに「重点テーマ」が付されており、関連する教材が連続して組織・配列されている。また、他教科の学習などの様々な教育活動との連携、家庭や地域との連携が図れるように4つの視点がバランスよく配列されている。A4判で紙面にゆとりがあり、文字が大きく読みやすい。絵や写真も大きく印象的で、児童の興味関心をひくものとなっている。命の尊さに関する教材が、直接的アプローチと間接的アプローチを用いて、各学年3点ずつ計6点掲載されている。連続した3教材で命の大切さを学習し、加えて、いじめ防止につながる教材が散りばめられている。1年を通して繰り返し命について考えることができるよう工夫されている。教材末尾にある「かんがえよう」や「深めよう」のページで、学習を振り返って感じたことをまとめたりするなど、自分自身について深く考える機会を持つように工夫されている。

次は廣済堂あかつきです。本冊と別冊との2冊で構成されている。本冊では、掲載教材を使って人間のよさや問題点について感じたり考えたりすることができる。別冊では、自分自身の学習や自己の生き方について振り返り、心の成長を感じたり、課題や目標を見つけたりすることができる。この2冊を併用することで、主体的に判断することが出来る自立した人間への成長を支える手立てとしている。考え議論

する道徳への質的転換を図るため、教材ごとに「考えよう話し合おう」の問いや、別冊「道徳ノート」に設けた書き込み欄などの活用により、2冊を併用して、答えがひとつではない道徳的課題に向き合えるよう工夫されている。教材や内容項目と関連して、児童がさらに学習を広げることができる内容が「もっと考えよう」「知っておこう」「活動しよう」「本のしょうかい」「人物のしょうかい」「このひとこと」など、さまざまな切り口から掲載されている。

以上です。

委員長 ありがとうございます。何かご質問等ございませんか。

A 委員 光村図書の2つ目の丸の所で「学年4カ所」に位置付けられているとあるのですが、なぜ学年4カ所なのでしょう。1学期、2学期、3学期となれば学期ごとに3カ所に、前期後期の2期制を意識して4になっているのか、なぜ4になっているのか、もしわかっているようでしたら教えてください。

委員長 教科書を見ながら、というのはいかがでしょうか。光村図書ですね。計画によって時期を分けているということではないですか。

A 委員 2学期制でも使えるようになっているということですね。

委員長 教育出版のモラルスキルトレーニングが全学年にまたがって随所に配置されとあるのですが、具体にはモラルスキルトレーニングはどのようなことなのか少し教えてもらっていいですか。

事務局 例えばなんです、4年生の47ページにあいさつに関する「やってみよう」という2人1組になって実際に登下校中の立ち番をしてきている人と児童役のような状況を設定して役割演技のような形で、読み物の中のあいさつの良さを学んだ後、実際に体験としてやってみるというようなものです。

委員長 他に何か質問はありませんか。前回話題になったのが別冊の事でした。その後、ご覧になってご意見等ございませんでしょうか。

G 委員 書くのは初めての1年生ということで全発行者見てみました。例えば、光村図書の「学びの記録」だったら、3種類のニコニコの顔を塗り分けるというようなことから始まるのですが、文字をびっしり書かせるタイプなのが日本文教出版の道徳ノートで、これは1年生の始めの所から書かせることを求めているので、書くのが前提だとすると使いこなすのが難しいと感じました。それと学校図書は発問が「活動」という分冊の方にあるのですが書ける分量、欄の大きさ、広さがあっていないものもあり、教える側からすると別に書かせるのだったらワークシートも必要かなと思いました。

E 委員 今の時間は選定具申についての質問をする時間なのか、それぞれの意見を言う時間なのか整理してほしい。今は選定具申についての質問。いつから論議に入るのか。

委員長 選定具申について質問がなければ話し合いしていこうと思います。他に質問はございませんか。なさそうなので先ほどの質問に戻ります。

E委員 版の大きさのことに言及している発行者とそうじゃない発行者があるのですが、光村図書だけがB版、あとは所謂AB版と言うのか、横長、縦長と言うのか。一番大きいのが学研教育みらいなんですね。A版でということ強調している所もあるのですが、その住み分けをするのであれば光村図書の小ささの良さみたいな研究とか、そのへん大きさの良い悪いについての研究は書いてあること以外にはありませんか。

事務局 大きい良さ、小さい善さはそれぞれあるのではないかと思います。先生方からの意見交流会、調査員の意見では小さい方についてのメリットとしてはほとんど出てきませんでした。それぞれ見方によってはメリットととれるかと思うのですが、主に今回は大きい善さという点で載せてあります。

副委員長 学び方というか、教師の方からすると教え方にもつながるのかなと思いますが、例えば東京書籍であれば、出会う、触れ合う、つながる、広がる、問題を見つけて考える、という学習の手引きのページがあったりとか、他の所でも同じように学研教育みらいでも深めよう、つなげよう、やってみよう、ひろげよう、の4種類の学び方のページに提示し、と書いているのですが、それぞれの教科書によって特徴はあると思うのですが、教える側の方からして限定的な、割に画一的な、割と縛りのあるようなものから、逆に緩やかなものというようなとらえもできるのかなと思うのですが、そういったもので特徴的なものがあれば教えていただきたいのですが。

事務局 おっしゃられたように、各発行者そのような分け方とかステップをあげていくような形とか目線を広げていくような仕組みというような形で系統を意識してどこも作られております。ですので、教える側がその系統の部分で今、何の学習をしているんだよ、という事をきっちり理解して、それが子どもたちにも、今道徳の時間の中の広げようというような視点で学習しているのだということが意識的に教えられている者に伝わっていれば、どの教科書を使っても、それは同じく系統と学びの積み上げはしやすいかなと。ただ、逆にそこばかりにこだわってしまうと子どもたちにとっては本質ではなくて活動の部分ばかりがクローズアップされて、例えばスキルの先ほどの話も同じなんですけど演技をすることだけに特化した授業になってしまうというのは違うかなと思います。答えになっているかはわかりませんが、扱い方次第、教師の持って行き方と取り扱いのウエイトの置き方でずいぶん変わるような気がしています。

委員長 他に何か質問はありますか。なければ先ほどの話の続きで、分冊になっていることについてG委員からも意見があったのですが、何かご意見ありますか。

E委員 いずれにせよワークシートのようなものを作って自分の学びの軌跡を記していくことは自分にとって、とても良いことだろうなと思っています。そういう意味で教科書発行者が用意をしているものの方が私は望ましいなと思っています。その中で学校図書の読み物と活動につきましては、書き込むにしたら、書き込む欄が大変

少ないなと感じています。発問はしているのですが、発問内容は大変多い気がしています。書き込むのではない。これは活動の本であるというふうに考えたらいいのかなと思っているので、少し意図が違うのかな。書き込めるものは日本文教出版と廣濟堂あかつきですね。廣濟堂あかつきは2ページ目以降の左側の方に今日の授業で感じた事や考えた事を書きましょうというふうに丸投げをしている感じがとっでもしている。右側の方は本文、教材文と合わせての発問ではあるのですが、ちょっと楽しさに欠けているかなと。文章だけなので。日本文教出版は割と本文に近いような形で5、6年生はマスがありましたよね。書きやすい丸投げではないと思う。しかも自分なりに3観点で評価があってしっかり考えている。2年生では新しく気づいたことがあった、これから大切にしたいことがわかったというふうに簡単な記述式で自分なりに振り返れるような評価観点を示されていて、分冊にする意味が日本文教出版にはあるなど。しかも友達の考えも書ける。学び合えるという趣旨が反映されているなど私は感じました。分冊した方が良いということと、分冊するのであれば日本文教出版のような形がいいかなという意見です。

委員長 他に意見はありませんか。

A 委員 私は逆の方の立場で発言したいと思います。前の道德ノートの時も持ち帰るということが前提だった話があったかと思っています。そうなった時に一つの教科で、分冊で子どもが持って帰って、また持ってきてというイメージがどうも煩雑さを感じるのが一点。もう一点はやはり、発問の部分も含めて書く量。子どもにとって毎回毎回同じようなイメージで授業は進んでいくのかもしれないけれども、教師の方で工夫して入っていく導入の方法であるとか、発問の方法とかを考えていった時に、どうもあまりにも何かその部分がこのノートの部分に書かれているような気がして、子どもにとったらそれが最初にない方が教師にとったら授業を進めるにあたって、一冊の方が良いのではないかなというふうに考えています

委員長 ありがとうございます。他に意見はございませんか。

B 委員 最初に全ての内容がわかって、こういう課題の時にはこういう事を書かなくてはいけないんだということがずっと先まで見て、できる子は「あっ、こんな時にはこういうことを書いたら満点もらえるよね」みたいな形である程度、道徳的な勉強をしながら、「これだったら、こう書けば正解じゃないかな」というようなことが段々見えてきて書いていくような子どもも出てくるかなというのも一つの問題点かなと。そのたびに書くことで気持ちを表すのが上手な子と、口で言うことで気持ちを、その正解、不正解かわからず思ったことを口で言えることが得意な子と、いろんな子がいると思うのですが、その状況をやっぱり私たち保護者にしてみれば、先生から今このクラスの状況と子どもたちを見ながら、別冊があったらこれに基づいて先生がやられて、これが書けない子は「ちょっとどうして書けないんだろう」ってマイナスになっていく感覚が出てくるのであれば、様子を見ながら発言をする子、この子は発言しないけど心に思っていることをちょっと書けるなって子が増えてきた時にワークシートの何か先生の教材的に用意されたもので書くことを引き出していただけるといったような形の方が負担がないかなというのと、ぱっと見た時に「こんなに書かなくてはいけない」って、私は常にできる子よりできない子がどう思う

のかという方がすごく重点を置いていただきたいなと思っているので負担になるようなことが少しでも少なく、一冊の中にまとまっている方が気持ちすんなり入れるのかなという意見です。

E 委員 それに関連していいですか。みんなが考える授業っていうのは我々の理想だし、考えない子は作らない。そういう意味で書くことによって何か自分に自信をもって、うちの学校でもよく言うのですが、「ペア交流をしましょう。書いたことを交流しましょう。その中で二人でしゃべって発表したいなと思うことがあったら発表しましょう。」ということで全体に広めていくというのをどの教科でも行っているのですが、いずれにせよ、書くということは自分の考えを表してみるという活動なので、それを抜きにすることはできません。いずれにせよ書きます。書く内容については、どの教科書においても、先ほど学研教育みらいでも「考えよう」で「はっとして顔を見合わせた二人はどのようなことを考えたのでしょうか」って、先生が聞いた時に「はい！はい！」「はい、あなた」で当てるのではなくて、「いったん書いてみよう」って、それを書いてみようっていうのは必ず必要です。そうでないと何も考えない子どもを無視して次々やっていってしまう授業づくりになってしまうので。いずれにせよどの教科書会社にも「考えてみよう」ってことに対して発問は出ておりますよね。それについて書く場面を保証してあげることが絶対必要だと思います。そういう意味での先ほどのシートにしてしまうとどこかにいってしまうとか束ねないといけないとか、いずれにしても束ねないといけないという作業が出てくるので、そういう意味では一冊になっているのはいいのかなと、中に挟み込んでこれで一冊になる日本文教出版は挟み込みが少し小さくなっているのですよね。持って帰る、持って帰らないについては、確かに一理あるなと思う。そういう配慮がしあるかなとは思いますが。

副委員長 今、ご意見をお伺いして確かに道德ノートというのも有効な部分があるかと思うのですが、先ほどご質問したことに少し関係するのですが、クラスっていうのは全てが画一のものではないんですよね。いろんな子どもがいる。それで同じ学年であってもそのクラスによって道德の場合、中心発問が少し変わることもあります。それだから指導案の中に子どもの様子っていうのを当然書き込んで、それによって教科書に書いてある発問の仕方を少し変える。中心発問においてワークシートに書かせる作業というのはおっしゃるようによく大事だし、最終的に評価の事も少し考えていかないといけないので、それは子どもたちがどれだけ今日の授業で学びとったか、つまり振り返りがどんなふうに行っているか、ということを含めてやっぱり書かせるということはとっても大事なんだけど、そこで教師の方からすればまったく画一的に、違う子どもたちなのに、同じ学年ではあるけれども、違う子どもたちなのに、同じ発問の仕方で行うのか、同じことを聞いて書かせるのかっていう部分のことで言うとワークシートはちょっと教師の何か自主性というか、使い勝手を考えた場合に、自分で作っていった方がやりやすいように思います。そこで言うと私は付いていない方がやり良いかなというふうに考えています。

委員長 ありがとうございます。先ほどB委員がおっしゃっていたように書く量が少し多いかなというように一つ思うのと、A委員がおっしゃったように保護者との行き来、子どもが書いたことを保護者の方がどう思うのかという所で言うと、例え

ば光村図書はあなたがしてみたいお手伝いを書いた後に保護者の人がそれをどう思いますか、おうちの人からという3行ぐらいなんですけど書くコメント欄があって、これは本と一緒になのでどんな勉強をしたのかなということもおうちの人もわかりつつ書けるのかなというふうに思いました。子どもたちはすごく、日本文教出版の方は書くんですけど、保護者の方の記入欄が最後のページに2行ずつになるんですけど、何月何日に持ち帰った時に保護者の記入欄があるのだけど、このことについてどうなのっていう意見をすぐに返すのであれば光村図書はすごく親切に書いてあるのかなと思いました。他に何かありますか。

C 委員 書くという作業は必ず必要だとは思うのですね。書くことによって子どもは頭の中が整理されてくるので、それによって議論も深まると思います。それから、指導する立場から言っても、やはり書いたものがあればその子の1時間の学びというのが後で振り返ることができます。これはしゃべりばかりだと、手を挙げてたまたま当たった子どもはいいですけども、当たらなかった子どもはどんな思いでそれを1時間考えていたんだろうかということが見取れない場合があります。だから評価という観点から言っても書かすというのにはすごく意味があると思うのですが、それを別冊で書かすのか、あるいは、教師が作ったプリントやワークシートで書かせるのかどっちかだと思うんですね。その時に、やはり子どもたちに一番近いところで、自分に近づけて考えさせるってことを考えた場合に決められた発問だけじゃなくって、例えば今このクラスでこんな問題が起こっていますよね、っていうのを導入で使う場合もあるし、教材を基にして最後クラスの課題に持って行くっていう場合もあるし、ここに書かれているのと違う発問をしたい場合も必ず出てくると思うんですね。そうした場合にはやはり、手作りのプリントの方が適しているのかなと思います。

委員 長 ありがとうございます。教科書に書き込み式というと、学研教育みらい、光村図書だったりするのかと思います。心のノートの冒頭の所にあったように、今自分が好きなこととか、好きな遊びとか好きなスポーツとか将来の夢というのが昔「心のノート」にあったのですが、それに似ているのは学研教育みらいにはそういうページがあるかなと思うのと、先ほどE委員がおっしゃっていたようにすごく幅広い感じはすごくしますね。光村図書よりは広いと言うか字も大きいのかなっていう印象は受けますね。そろそろ選定委員会として上位となる教科書を絞っていきたいのですがご意見ありませんか。

F 委員 学校の先生の立場からしてどういう教科書、先ほどずいぶん詳しく教えていただいたんですけど、クラスみんなで考えさせようという、おそらくそれぞれやり方があるかとは思いますが、特に道徳は解答というのがないと思いますので、そういった時にどのように先生たちに進めていってもらおうというお考えで学校側としては対応されるのかなというのがちょっと気になっている所です。それによって内容って結構アバウトな方が良いのかもしれないですし、なかには少し偏っているなっているのははっきりあるのですが、そういったむしろ方向性をしっかり決めた教材の方が展開しやすいとは思いますが、もっと簡単に言いますと、非常に広く考えさせる教科書と、むしろちょっとこっちの方向性でしつけだったりとかを重点的に教えていくのと、どちらの方が望ましいとお考えなのかと聞いてみたかったので

すが、聞きにくいですか。先生によるんですか。やっぱり。

E 委員 よろしいですか。やっぱり教師の経験があるなしだとか、いろいろな課題に対応してきた経験のあるなしだとかいろいろあるのですが、道徳は指標になるのが教科書と私は思っています。そういう意味で本当に親切にどの教科書にも考えてみようというところに中心発問が書いてあったりしてどの教科書も導いてくれているなど。それによってあまりぶれない、道徳的な価値を1日この時間の45分間でつけたい、つけたい道徳的価値はどの教員もつけられるような教科書になっているなどと思います。ですからクラスの実態によってぶれてくるのは絶対まずいと思います。ちょっとここから先は問題が二つになってくるのかなと思うのですが、学研教育みらいだけ道徳的価値を主題の前に書かないという、あとは全部書いてありますね。それが良いのか悪いのかっていう、分冊になっていることも含めてなんですけど、やはりあまりぶれない。あまりぶれないと言いますか、この教材、この読み物教材ではこの道徳的価値を与えるのだということをどの教員もこの教材に接した時には中心に考えなくてはいけないというのがあります。1時間が終わった所で何を学んだんだらうというような、読むだけだったんだというのにはならないことが、これは国語ではないので必要です。

F 委員 小学校の時、道徳の教科はあったと思うのですが、ほとんど覚えていないんです。印象にないのか、何をやったのか全然覚えてないんです。これで改めて出されるといことでどのようになっていくのか、想像がついていないというか。すいません。感想です。

副委員長 今みたいに昔の道徳と今の道徳、これからの道徳は違うんです。もちろん変化している部分もあると思うんですけど、何が道徳の時間で一番大事なのかという昔からそうなんですけど、中心発問で考える時に一番大事なことは答えが一つにならないことなんです。いろんな意見がでるような発問をすることなんです。1個って言うことではそれこそ国語と変わらないんです。そうじゃなくてたぶんこれからの道徳は考え議論する。それから多角、多面っていう。だからいろんな意見が出てその中で子どもたちが「あっ、こんな意見もあるんや、あんな意見もあるんや」っていうふうに感じられるようにしていくことが道徳の授業で昔からなんですけど大事なことなんです。一番大事なことはね、そういう意味では。だから一つ、ぶれるとかっていうことは最終的にこの内容項目を考えるっていうのはベースとして決まっています。それはもちろん間違いない。だからそれさえ外さなかったらいろんなアプローチができるのが逆に道徳だと思います。そんなふうにするべきなのが道徳の考え方なのかなって思います。だから確かにいろんな先生がおられて、それこそ経験の浅い先生で幅の広いようないろんなやり方ができるってどれをやればいいのかって。もう一つここに出ていない指導書というのがありますので、それを参考に、そこには指導案っていう見本が書いてあるものがあるので、それを参考にすれば、この教科書だけでするわけではないので、できるんだらうっていうのは思いますけどね。

委員長 先ほども話があった通り、この単元でこういうことを学ぶっていうのが冒頭にあるものと、ないものとありまして、B委員からもいろいろと意見があったんです

けど、このことについてこんなふうには書けばいいんだという予測がたつものはどうなんだろうっていう意見もありつつ、ぶれないっていう所も、一つ良い点としてはあるんですね。そういうことも踏まえながら、別冊なのかワークシートのあり方についてもいろいろお話を聞いてきて、おおよそどのへんの発行者を絞り込んでいくのかということらへんで少し考えていただけたらとおもうのですが、今よく話が出ていたのが、別冊なんだけど日本文教出版と光村図書も話が出ていたのかな。それと、学研教育みらいは冒頭にない分ですが、いろいろな可能性を残していくというのであれば正反対のものを残してはいるんだけれども、そのへんを残していくという形ですか。この3発行者ぐらいですかね。何か違うのがあればどうぞ。

D 委員 途中からお伺いしたのでみなさんの意見が重複していたら至らない意見かもしれませんが、やっぱり道徳というのは1時間授業が終わった時に、「あの子はこんな意見だったんだ、この子はこんな意見だったんだ」と、何か主題があったとしてもそれに対してこんなにたくさんの意見があるんだねっていうことに気づけたっていうことを1時間でみんなが気づいて、それに対して「なんでやねん」とか「そんなんおかしいやん」とかじゃなくて、それをみんなで理解し合う時間だと思うので、それを1年生からしていけば、5、6年生とかで「そんな意見おかしいじゃないか」ということが、授業などできつめに言うとか、他の授業とかで出てきたりもあるかもしれませんが、道徳でそういういろんな意見があるんだっていうことが当たり前なんだって思える時間を作るのが道徳なのかなと、私の中では勝手にそう解釈しているのですが、なので1時間の中でまず、読みやすいのが、別冊か別冊じゃないかを抜きにしても、お話を受け入れやすいようなものになると、字が小さいよりは大きい、絵がちょっと受け入れにくいものよりかは、受け入れやすいとか、そういうところがまずあるのかなとなると、学研教育みらいが見やすかったりとか、日本文教出版も見やすいかなと思います。

E 委員 多様な意見が出たらだめだって一言も言っていないで、多様な意見が出せるように一人一人がきちんと考えて自分の意見を持つという事がすごく大事であり、それを交流しあうことが大事であることは当たり前のことです。それで、この人たちは違うということではなくて、ただ、道徳的価値というのはあるので、例えば泳げないリスさんをどうやって向こうの岸まで連れて行こうかというような、いろいろな方法を考えていけばいいんだけれども、「いや、リスにはあきらめてもらってほっといたらいいじゃん」と例えば出たとしても、「それもそうだよね」と、そこの所どうやって修正していくのか、何とかリスさんと一緒に遊びたいと言って向こうの方で「つままないな、リスさん来なかったらつままないな」と思っている他の動物のことも思いやって、「それでもしょうがないじゃん。泳げないんだから置いてけば」というようなことが出てきた時にやっぱり道徳的価値としてはみんな友達っていうことを結局最後はみんながドスンと落ちてこないといけないという意味では道徳的価値は教えるものはしっかりと教師は持っておかないといけないということを行っているわけで、いろんな考えが出てくるというのはちょっとダメという言ったわけではなくて、もしそのように受け取られていたらそれは違います。

委員長 今私の方がまとめさせてもらって、日本文教出版、学研教育みらいはよしとして、光村図書はやっぱり字が小さいからどうなのという話があるのですが、いかがです

か。

C 委員 先ほどは別冊、ワークシートの問題とも関わってくると思うのですが、もし教科書のほかにプリントがあるとしたら、教科書とプリントを机の上に広げないといけないんですよ。その時には小さい教科書の方がプリントは書きやすいんですよ。なので、小さいサイズの教科書を私は薦めます。

委員長 それでは、光村図書、学研教育みらい、日本文教出版の3発行者を順位づけさせてもらっていいですか。光村図書、日本文教出版には賛否両論でているので、学研教育みらいはどうでしょうか。

D 委員 質問なんですけど別冊のない教科書にも指導書にはこういったノートを作ったらいんですよ、というようなガイドライン、赤本、虎の巻のようなものは先生の方にはあるのでしょうか。もし、経験の浅い先生にそういったものがあつた方がいいというようなことで別冊という意見もあがつていたと思うのですが、そういうものが別冊のない教科書にもあるのであれば、私は別冊にこだわらなくても、先生の自由な裁量も作れるような、別冊じゃなくてもいいのかなと思っています。

副委員長 指導書の中にどこまで書き込んでいくのかというのはここではまだ出ていないのでわからないんですけど、必ずワークシートの見本がついているかはわからないんですけど、ただ、先ほど言っていたように授業の形というのはだいたい決まっています、導入があつて、その後に子どもたちの話し合いの部分があつて、先ほど言っておられたように、ちょっと違う方向に行く時には教師の方で別の条件を出したりして、またこっちに引っ張ってきたり、それが教え込みにならない形でやっていくというパターンですよ。そういうふうなパターンのものは当然あります。その中で自分が45分間の中で収めないといけないので、あまりにも分量が多いようなワークシートを作っても書ききれないんですよ。それもやっぱりどうなのかなと思います。だから、自分の授業の組み立てを指導書を参考にしながら組み立てていき、これとこれを書いて、最後、子どもたちに今日の授業の振り返りをさせる。せめて3分確保する。その組み立てをできる範囲というのが決められているのかな。あまりガチガチにいうのはよくない。参考にするっていうのはもちろんあると思います。ワークシートまで見本があるかどうかというのはあれですが、ワークシートを作るのはそんなに難しいものではなくて今言っているような授業の流れがあるので、その中で書かせることがだいたい決まってきましたし、振り返りの部分があつたらだいたい授業の流れになるので。あと、学研教育みらいは最初に今日はこんなお勉強をします。今日はこれについてお勉強しますというのを書いていないけど、それを言うてはいけないのではないんですよ。言う余地があるっていうこと。逆に、最初に言うて始めるパターンっていうのも、もちろんありの話だし、今日はそれを置いておいて、別の形で導入していきこうというのができるというのが学研教育みらいですね。だから、いろんな形を好まれる先生もおられるので。

F 委員 山田駅前図書館でのご意見を見ていると光村図書を非常に選んでほしいというのが多かったですね。ひとつだけまったく違うというのも意見としてありますけど。日本文教出版は税金のことが書かれているのがどうなのかなという意見がありまし

た。個人的にお伺いしたいのですが、銀の皿が載っている教科書が結構多いのですが、内容的にどう展開するものなんですか。

委員長 内容としては相互理解・寛容ということになります。他の人との関わりで相互理解・寛容というのがキーワードになっていて、一番後ろに内容項目でこういうことを培うためにこういう教材を揃えていますということになるので、いろんな視点がおっしゃる通りあるんですけど、この教科書でのねらいとしては相互理解・寛容ということになりますね。

F 委員 だいたいそういう視点であるとは思いますが、今3つ選んだ中ではないところがあるんです。いや、道徳的な難しい題材を使ってらっしゃるなどと思ひまして。内容面、先ほどの税金の話とかあまりにも広すぎて理解できるんだろうかというそういう側面もあるのかなという、3つ選ぶ時にも一つそういうことも考えないといけないのかなと思ひました。

委員長 3発行者ということで少し絞らせていただけたらと思うのですが、今言った3発行者でよろしいですか。他の教科書発行者の良い点、工夫で意見があればお願いします。

F 委員 日本文教出版は私も税金のこととか具体的に書きすぎているのかなという気がしてあまり推薦できないかなと思ひます。

委員長 他どこか違う発行者に入れる、または3位の中で順位づけするのであれば日本文教出版ということにするか、他の発行者にこんな良い所があるよということをおっしゃっていただけたらと思うのですがいかがでしょうか。

E 委員 光村図書は小さいからなのかパッと開いた時に左ページ始まりが結構あるんですね。そうするとぱっと開いた時にユニバーサルデザインというか右ページが気になってしまいますよね。開いた時に一つの題材がぱっと出てくるというのが子どもにとっては見やすい教科書になっていて、左から始まっているのが光村図書には結構多いです。小さいからそうになっているのか、そういう配慮があまりしていないのか、内容云々という事もすごく大事なことでけれども、パッと見子どもが手に取った時に読みやすい教科書というのは左始まりがいいなと思ひます。

委員長 1年生とかはわりと見開きで右始まりも多いんですけど

E 委員 学研教育みらいはすごくこだわっていて、開いた時にその教材がトップになるようになっていきます。

副委員長 確かに学研教育みらいはこだわっていますね。

委員長 学研教育みらいは入れることにしましょう。

E 委員 いいですか。最初に主題を出す、出さないについてはすごく論議をした方がいい

と思います。学研教育みらいだけなので、あと文科省の教科書検定は通っているのですが、吹田市はこれでいくっていうのを。しっかり道徳的な内容項目をばんと出している学校図書は「規則の尊重」と2年生で書いていて、内容項目が明確にしていると、両極端ですよ。そこまできっちりしなくてもいい。「公平な態度」とか「大切な家族」とか。中央研修では価値は最初に教えるべきだと、今日はこのことについて学習するよということは教えるべきだと研修で習ってきたのでそれは自分的にも大切だなと。

D 委員 私も主題を最初に出していた方が授業としてはすっきりと子どもたちがその主題について考えるという意味では、いろいろと分散してしまわないでスマートに話が進んでいくと言う意味ではすごくいいなと思うのですが、ここになくても先生がご理解されていれば、問題ないのかなと。子ども自身はここを見てもそこまで低学年は気にしないんじゃないかな。高学年になるとそれこそおっしゃっていたような、それに対してこう答えたらいいかなと考えて読むのかなと思うのですが、先生にとっては重要なのであれば、あった方がいいでしょうし。

委員長 意見がいろいろ分かれるところではありますがそれぞれの特徴を生かしたものを最後3つ入れておいた方が採択の余地があるのかなとは思っています。

B 委員 先ほどの3発行者のことなんですけども、違う要素のものを入れておいた方がいいという事で日本文教出版に関してなんですけど、これは別冊がついて記入するというのと、テーマがしっかりしているのが特徴だと思うんです。その特徴でもし選ぶのであれば私は日本文教出版ではなくて、学校図書で、同じようにテーマがしっかりしていて、目次の所に読み物のマークが付いていて今日はこれについて考えると、もし、テーマがはっきりした方がいいというのならよりわかりやすくなっているのと、別冊が書き物というより「活動」ということでいろんな意見を出し合いながらその中にさりげなく書く所があって、それに当てはまるようなことを書いていける所は書いていけばいいというような心の余地という所があって、子どもの力を引き出しやすいのかなと思ったので、もしこの特徴を生かして選ぶのであれば学校図書の方をお薦めするなということなんです。

委員長 先ほどの税金の話も少し気になるということだったので、学校図書、光村図書、学研教育みらいの3発行者に絞り込みましょうか。

A 委員 いいですか。ひとつだけ学校図書は気になっている部分がありまして、それはページの用途をもし活用するのであれば、それが読み物と目次順が違うので子どもが戸惑わないかなという思いがあります。

委員長 4ページが活動の12ページになるということですね。順番になっていないということですね。

A 委員 そうです。そこが気になっていて、中身に関しては日本文教出版よりいいのかもしれないなと思いつつ、子どもって何か合っていないことが気持ち悪い気がするんですね。まったく別の授業だてになるような感じになって、教科書を使ってやるも

のと活動としてまとめて活動するものと。

委員長 順番が変わるんですね。先生が活動のページ何ページ開きなさいということをおっしゃらないと子どもが少し混乱する恐れがあるということですね。

B 委員 今回の意見もすごくわかりますし、こちらの生きる力の方は順番で、きっちりということで、違う考え方をしたら、これはドリルで1から順番にしていくということで整理はしやすいし、子どもにとっても戸惑わないという利点はあるんですけど、やはり先を読んでドリルも先できる子はどんどんしてしまうように、これも先にこんなことが出るからこういうふうにしてしまおうということで、反対にこういうふうにはずれていると先生はしっかりわかってらっしゃるので、ここをしている時にはここなんだという感じで提示してあげたら、その場で提示されたように子どもはそのことだけを純粹に考えられるじゃないかなという利点もある。確かに戸惑う子どももいると思いますが、先生さえしっかりわかっているならば利点があるかなという考えもあります。

委員長 ワークシートは丁寧は丁寧ですよ。学校図書の活動のページ。

E 委員 学校図書はワークシートという扱いではなくて「活動」なので書き込むには無茶苦茶無理がありますよね。発問に対して。それからノート扱いにするのか、別本でもう一度やってみようかというイメージですよ。

D 委員 もう一冊ノートというかワークシートがいますよね。学校図書のこの内容だと、書くことも大切だというお話だったんですけど、書くというよりはみんなで意見を言い合おうという雰囲気のものであるので、もう一つワークシートのようなものがあるような、とてもいいもの、とても考える内容としてはすごく素敵なものがあるような書いてあるんですけど。

G 委員 私も学校図書は別にワークシートがあるかなと思います。光村図書に別冊はないのですが、別に付いていた内容解説資料を見ているとDVDがついていて、それに打ちかえのできるワード形式のワークシートが所属されているとあるので、別冊はないけどワークシートを実際取り出して先生が工夫して、ちょっと言葉を変えたりとかして、それ自身をベースとして使えるものが付いてくるようです。

委員長 光村図書はどうですか。

B 委員 全然違う特徴としてはいいと思うんです。似たようなものではなく違う要素としては残しているんじゃないかなと思います。

委員長 様々ご意見がメリット、デメリット出たんですけど、別々の良いところを集めて3発行者というのではなくて、選定委員会としての考え方を盛り込んだ形で3発行者を選んでいきたいと思っています。それで言うと、中に書き込むというところという学研教育みらい、光村図書ですね。別冊でいうと日本文教出版、学校図書になってくると思います。それで言うとどちらの方を推しますか。使いやすさとか、過去

にあった「心のノート」のあり方によく似ていて、おうちとの往復みたいな所でいうと光村図書や学研教育みらいが近いのかなというふうには思うのですが、どうでしょうか。そういうのがあれば、今まで教えておられた先生としては「心のノート」の取扱に似たような形ができるのかなと思うんですね。いかがですか。

E 委員 光村図書は書き込めるようになっているとA委員がおっしゃっていたように4期に1回に考えたことを書いていくというには程遠い。書くことは大切だということについて選ぶには違う気がしませんか。

委員 長 先ほどG委員からDVDについてお話がありました。

E 委員 DVDはどの発行者も付いていますよ。どの発行者もワークシートは付いていません。

委員 長 長時間になってきたので、5分間休憩にします。

【5分間休憩】

委員 長 それでは休憩が終わりましたので、今までの話のまとめで、いろんなご意見が出て良い所、悪い所それぞれあったと思うんですけど、やはり授業のいろんな工夫の余地であるとかそういう事も考えながら方向性を出していけたらいいのかなと思っています。それで一つ、この授業のめあてについてはもちろん当然示していくんですけども、それを最後までもたせる意味というか、そういう含みを、そういう可能性をもたせていくという意味では学研教育みらいは、私たちの中では自由度がまだあるのかなというのと、文字の大きさと写真の大きさとかから言っても学研教育みらいはこの上位の中に入れていい発行者と思います。みなさんうなずいているので入れたいと思います。あとの2発行者についてはいろいろ話になってそれぞれ良い所、悪い所出てきたんですけど、どうでしょうか。別冊かそうではないかというところもあったんですけど、いかがですか。

D 委員 私はノートが別冊かどうかというのは、それほど大きな議論ではないんじゃないかなというふうに思います。特に今まで子どもたちはプリントで授業を受けていたりしているので、別冊だからとかよりは、先ほどB委員がおっしゃっていた学校図書の方が先生の話の持って行き方の幅の広がりといったらすごく広い副読本になっているので、いろんなことを取り上げたい時にいいんじゃないかなという意味では、この別冊としてあって逆にいいものなのかなと。日本文教出版のように書くことが決められているノートになっているよりはこれ自体は活動という副読本の方はノートとしてというよりはあくまで副読本として、子どもたちがもっと深く感じられるような状態ならここまでたどり着くだろうし、この本のお話で深く話がいって今日はここまでではないけど、こっちで一旦終わったからそれでもいいという意味でもいいんじゃないかなと思います。

委員 長 授業の自由度というところでは、いろいろ展開ができるのかなと思います。もう一冊は学校図書という意見があるのですが、よろしいですか。

B 委員 私たちの趣旨がぶれている所で、こちらを選んだのは先生が教える幅と子どもたちの自由度を受け入れながら進めていくということで教師によっては最初にこれは今日はこういうテーマでっていうことを言えるというような、その方が進めやすい先生もいらっしゃるかもしれないということ、幅のあるゆとりのあった道徳授業ができるということでこれを薦めたいですということなんですけど、それに同じテーマで、テーマは出てますけど、さっき言ったように先生方のやり方で自由ということで幅のある授業ができるという意味で1番にこれを押しながら2番に同じ芯にしたらこっちになるのかなという感覚です。

委員長 B委員の御意見でいうと、学研教育みらいを幅のある授業というところであげつつ、2つ目として学校図書なのかなということですね。そういう方向性でいいですか。授業する側の自由度を重視するというので、2つ出たんですけど。

E 委員 内容項目を示さないから学研教育みらいがいいと言っておきつつ、学校図書が一番内容項目をバチッと示しているんですね。「誠実」「思いやり」さっきA委員がおっしゃっていたリンク、ページが順になっていなくて、「誠実」に関するものをピックアップしてワークシートになっているので内容項目の押し方がとってもしっかりなっています。それが悪いとか良いとかじゃなく、だから観点が違いますよね。要は内容項目をぼやけながら結局押さえる所は押さえるけれども。

副委員長 違います。おっしゃっていることの受け止めが違います。そうじゃなくて内容項目の出ている、出していないの問題ではないんですよ。そこをこだわるからそんなことになってしまうんだけど、それはその一つなんです。自由度っていうのは。教師がいろんな形で授業をもっていける一つとして内容項目が一番最初に出ている、出していないというようなことを言っているの、内容項目でずっと押しているって。でも内容項目って絶対どこかで押さえないといけませんよ。それは当然のことなんです。だから最初から出ていなかったら導入の部分が違いますよというだけなんです。全体的な組み立てがいろいろできるものとして今言っている話だと思います。だからその分、例えばこの部分であればこういう余地があるんじゃないかという話で学校図書になっていると思います。

B 委員 内容に関して全部を見て客観的に一保護者として子どもの目線っていうのはおかしいんですけど、私的にこれを見たときに幅のある教科書だなと第一印象を感じました。先ほど学研教育みらいを推しながら、これではテーマが出ているのがおかしいと言われたらそれはそうなんですけど。もしそれがやりやすいと言う先生がいらっしゃって、こっちが出ているほうがやりやすいからこっちの方がって言った時にそれを選ばれた時にこっちだったら私だったら見やすくてわかりやすくて子どもが飛びつきやすいような出し方を図で示したりすることによってやわらかく、今ここに4人入っているから家族愛なんだな、1人だから一人の自分の心を考えるんだなとか絵で感じ取る子もいるかもしれないというところでちょっと柔らかく感じます。それと、その副読本の方をこちらだったら必ず順番に書いていかないといけない、抜けていると先生がサボっているかのような感覚にとらえられるし、子どもも書いていなかったらサボっているかのように捉えられるけど、この活動の

部分は私は絶対的に使わなくっちゃいけない本ではないのではないかなと、勝手に考えています。もし先生方にそれは違うよと言われてたら後で訂正していただきたいのですが、その時これを使いながらこっちのなかでこっちの方がわかりやすいような感じになったり、吹き出しに書くことで、書かなくっちゃいけない時に書きやすくなるために、先生が使い勝手がいいのかなと、子どもも受け取りやすいのかなという意味でこれを使ってもらえたらいいのかなという感じなんです。すいません。中身もわかっていないのに。

委員長 それでは、学研教育みらいと学校図書ということで2発行者を考えさせていただこうと思います。では第3回の選定委員会では方向性として先生が教える自由度っていうところをやっぱり残しつつ、2つの発行者というところで学研教育みらいと学校図書を考えたいと思います。

事務局 ありがとうございます。私から1点、本日の答申案の鑑の所をご覧ください。今、答申案の1番ということで道徳についてご協議いただきました。2番についてですが、こちらも含めて答申するというので、その案を1番最後、別表2に掲載しております。学校教育法附則第9条に規定される教科用図書の採択について、以下別表2のとおり採択することが望ましいと考えます。別表2なのですが、諮問の時にもご説明いたしました。附則第9条に規定される教科書というのは、小・中学校で言えば、いわゆる支援学級で特別の教育課程を実施しているという場合で所定の学年の検定教科書を使用することが適切でない場合、この附則第9条に基づいて採択することができる教科用図書のことで、その採択について以下のことを答申しますということで、吹田市におきましては、従来より、障がいのある児童生徒の社会参画や自立を実現させる観点に立ち、可能な限り全ての児童生徒が、共に学び、共に育つよう配慮しており、支援学級に在籍する児童生徒と通常学級に在籍する児童生徒との様々な交流を大切にしてきました。従いまして、支援学級に在籍する児童生徒につきましても、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第3条の対象として、通常学級の児童生徒と同じ「検定教科書」を採択し、附則第9条に規定される教科用図書については、採択しないことが望ましいと考えます。しかしながら、これまで、弱視児童生徒のために、検定教科書の文字や図形を拡大等して複製し、一般図書として発行する場合、弱視の児童生徒に無償給付する措置がとられてきました。従いまして、対象の児童生徒の教育条件の改善に資するため、「拡大教科書」を附則第9条に基づき採択することが望ましいと考えます。なお、各種目の「拡大教科書」につきましても、平成30年度使用教科用図書として採択された発行者の教科用図書を拡大したものとします。というような文言を入れた形で答申案を立てたのですが、いかがでしょうか。参考までに、ここに述べている法律については、こういう形で表記されているということをご案内させていただきます。以上です。

次回以降の委員会についての説明と依頼でございます。次回の委員会についての説明を申し上げます。次回7月7日（金）15時から第4回選定委員会をさくすく三番館4F教育委員室にて行います。本日の協議内容をもとに、加筆修正された答申書（案）を確認いただき、その後、教育委員会に答申する運びになります。委員長より事務局上席に手交していただきます。第4回選定委員会にて皆様の選定委員としての役割は終了でございます。この後は、選定委員会からの答申を受けて教

【平成30年度使用教科用図書（小学校）採択に係る 第3回選定委員会】

育委員会にて各種目1社を採択いたします。前回お渡ししました「調査報告書」並びに本日の資料として配付いたしました「具申書（案）」の取扱いについてでございます。どちらも7月7日の第4回の選定委員会で返却いただきますが、それまでの間、教科書内容の研究・検討にご活用いただくとともに厳重に保管いただきますようお願いいたします。当然のことながら、今回の教科書採択終了まで選定委員会の内部資料でございます。外部の方への提供は厳禁ですので、よろしく願いいたします。

委員長　それでは、以上をもちまして第3回選定委員会を終了させていただきます。ありがとうございました。

【17：00閉会】